

**コロナ禍でも新たな活動が生まれ！**

●じっと座すのではなく行動へ！

昨日、浦高同窓会ホームページ委員会の鯨井光夫

さんから、『☆浦高関連情報「金融証券界に「浦高あり」「中堅若手の飛躍の場に」新たな同窓会設立』との情報をいただきました。

<https://www.asahi.com/articles/DA3S15291989.html>

先日の理事会でも報告がありましたが、5年前から検討が進められてきた「浦高ビジネス人材ネットワーク事業」がいよいよスタートしました。この事業は、木村恵司・浦高同窓会前会長(高17回)からの要請に応じて2016年11月に設置された「同窓会活性化検討委員会」〔座長：野辺博氏(高24回、当時同窓会副会長、現会長)の中で今後の同窓会のキープロジェクトを検討しようということで提案された2つの事業の1つでした。

提案されたのは、高橋宜治氏(高22回、当時同窓会監事、現副会長)で、当初はさまざまな商社に勤務される浦高OBの横のネットワークを作ろうということで「(仮称)浦高商社会」を準備されていました。高橋様と関係者の準備が整い一昨年春に総会を予定していたものの、コロナ禍により残念ながら延期になっており、「金融麗和会」が関係者の日程の都合で早いスタートとなったようです。今年度中には「(仮称)浦高商社会」も誕生するようで、今後の活動に期待するところです。奔走された高橋副会長や関係者の皆様には心から御礼とお祝いを申し上げたいと思います。

もう1つの事業は「同窓会の法人化」であり、こちらは藤野龍宏事務局長(高22回、当時、現事務局次長)のご尽力で2020年7月に「一般社団法人埼玉県立浦和高等学校同窓会」になることができました。一般社団法人となった同窓会も、今年6月の社員総会・会員総会を経て3年目の活動に入ります。母校の130周年に向けて、これまでの活動・事業を活性化されるとともに、新たな目標設定が求められることとなります。

さて、コロナ禍3年目となった同窓会活動、各地域職域でも中止となっていた総会や懇親会などを再開する動きもあります。私も春日部地区浦高会の会長を拝命して2年間、幹事会以外の活動を自粛してまいりましたが、今年9月の総会は何としても開催したいものだと考えております。本日の夕方には、幹事会を開催して今後の事業展開を検討してまいりますが、会員間の親睦と地域貢献活動のできる同窓会でありたいと思っています。



## 金融証券界に「浦高あり」

### 「中堅若手の飛躍の場に」 新たな同窓会設立

「金融麗和会」という組織が発足する。謎の財テク集団か、それとも令和時代の投資グループなのか。実はこの組織、全国屈指の公立進学校・埼玉県立浦和高校(浦高)の同窓会。浦高の新しい職域同窓会として12日夜、東京都内で設立総会が開かれる。

浦高には、金融・証券の世界で活躍しているOBが多い。公立高校でこれだけの顔ぶれがそろうのは珍しい。設立のいきさつは5年前にさかのぼる。同校の存在感をさらに高めていくと、当時の同窓会会長が音頭を取って同窓会活性化検討委員会が作られた。近年、金融・証券界で要職に

前にさかのぼる。同校の存在感をさらに高めていくと、当時の同窓会会長が音頭を取って同窓会活性化検討委員会が作られた。近年、金融・証券界で要職に

■金融麗和会相談役

岡本園衛	日本生命保険相談役(元社長)
橋本義昭	埼玉県信用金庫会長
國部毅	三井住友フィナンシャルグループ会長
末松広行	元農水事務次官(SB1ホールディングス取締役)
樋口哲司	MS&ADホールディングス副社長
寺口智之	野村証券副社長
奥田健太郎	野村証券社長
半沢淳一	三菱UFJ銀行頭取

生だ。設立に奔走した一般社団法人・ディレクトフォースの高橋宜治理事(71)は「表に掲載されているOBは相談役的な存在で、会員にはならず、現場で活躍する40〜50代が中心になる」と説明する。

会則案にも、同窓生の親睦をはかり、若手・中堅OBの一層の飛躍の場になってほしいとの思いが込められている。

金融麗和会の重鎮と若手の橋渡し役を担う元総務省官僚の渡辺泰之・多摩大学大学院客員教授(49)は「総務省時代は上の人が何を考えているか知りたかった。同じ業界、会社でも若手は幹部と話づらいもの。同窓会はその壁を取っ払って若手に刺激を与える場になればいいと期待している。

同窓会に「金融」の名称がつく前例としては、東京・開成高校の「金融開成会」がある。(佐藤太郎)

埼玉県立浦和高校つくOBが増えていることに着目。ビジネス界で働くOBの交流を促進するのが設立の狙いだ。